



慶應義塾大学ビジネス・スクール

取引と仕訳

5

1 期中手続

前回のノートでは、簿記一巡の手続を簡単に説明した。このノートでは、簿記一巡の手続を詳
10 しく見ていくことにする。

企業会計の特徴は、ある期間に属する損益を計算する点にある。損益を計算するための期間のことを会計年度（会計期間、財政年度）と呼ぶ。通常、会計年度としては1年が採用される。わ
15 れが国においては、国の財政年度にあわせて、4月1日から3月31日までの1年間を会計年度とする企業が多い。一般に、会計年度の始めを期首、途中を期中、終わりを期末という。期中には通常の手続を行ない、期末には決算と呼ばれる特別な手続を行なう。決算の目的は、期末時点の財政状態を表わす貸借対照表と、その会計年度の経営成績を表わす損益計算書などの財務諸表を作成することである。

期中においては、企業のビジネス活動の中から、会計上の取引にあたるものを見抜いてこれを記録する。具体的には、取引を仕訳帳^{しわけちょう}または伝票にデータ入力し、それを総勘定元帳というデータベースに書き写すことになる。仕訳帳や伝票に取引をデータ入力する手続を仕訳と呼び、仕訳した結果を総勘定元帳に書き写す手続を転記と呼ぶ。この手続は、期中に常時行なわれる手續なので、期中手続と呼ばれる。期中手続を図式化すると図1のようになる。

.....

本ケースは、慶應義塾大学ビジネス・スクール准教授太田康広が複式簿記の演習問題として作成した。ケース中の企業は架空のものである。
本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール(〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp)。また、注文は<http://www.kbs.keio.ac.jp/>へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法(電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない)による伝送も、これを禁ずる。

Copyright© 太田康広 (2009年1月作成)